

4/7 災害時の避難者のために活用して

鶴田ロータリー 車いすの寄贈

鶴田ロータリークラブ（坂本幸光会長）は町に車いす1台を寄贈しました。

この車いすは持ち手が上下にあり、非常時に人を乗せたまま階段や狭い場所を搬送することができるタイプです。2022年の大雨被害でエレベーターのない施設で車いすの避難者が2階に上がれず、職員が背負って避難させたことを踏まえて今回この車いすを寄贈。

坂本会長は「何も起きず活用されないのが一番だが、万一に備えてほしい。今後も困っている人を助ける活動を行っていききたい」と話していました。



非常時に階段などで搬送できる車いす



子どもたちの登校を見守る参加者たち

4/9 子どもたちの登校を見守る

春の交通安全運動 早朝街頭啓発

町交通安全対策協議会（会長・相川正光町長）は鶴田小、中学校校門前や学校付近の交差点で交通安全早朝街頭啓発を行いました。

この日は30団体から約50人が参加。交通量の多い交差点で児童たちを見守りながら、交通事故防止を呼びかけるプラカードを持ってドライバーらに安全運転を呼びかけていました。

鶴田町の昨年の交通事故件数は、人身事故が12件、物損事故が141件ですが、幸い死亡事故は起きていません。

4/10 つるつる頭をなでて「けがなし」

ツル多はげます会 けがなし交通安全運動

NPO法人ツル多はげます会（須郷貞次郎会長）の会員10人が、鶴田小学校で登校する児童たちに「けがなし」交通安全を呼びかけました。

会員たちは玄関前で登校する児童たちをお出迎え。児童たちに「頭を触ると怪我なしだよ（毛がなし）」と話しかけると、児童たちはご利益をあずかるように楽しそうに触る一方で、苦笑いをする児童もいるなど反応はさまざまでした。須郷会長は「子どもたちに『けがなし』のご利益があることを願っています」と話していました。



会員の頭をなでて「けがなし」のご利益にあやかる児童

地域おこし
協力隊通信

Vol.84（筆：毛利精悟）

今年度から「地域活性化支援センター『ツルタラボ』」を主な拠点として活動しています。指定管理者である「(一社)もったいない研究所」さんの運営により、4月からインターネット予約が可能となりました。利便性の向上に伴いご利用くださる方の数も大幅に増えています。

3月の「わんわんマルシェ」では町内外から多くの愛犬家が訪れ、体育館が活気に包まれました。ゴールデンウィークには様々な分野からの出店によるフリーマーケットが開催され、ラボの使われ方が多様化したのを感じます。

私は、8月1日～11日の期間限定でグラウンドを臨時キャンプ場として活用させていただき、鶴田町の便利な立地と自然を広く伝えたいと考えています。秋には熱気球体験会の構想もあります。今後もツルタラボは地域活性化に大きな可能性を秘めていると思います。



▲フリーマーケットのチラシ(イラスト：毛利)



地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。



岩木川土手のゴミ拾いを行う参加者

4/12 地域美化のために ボランティア活動 クリーン運動

町内の企業・団体、町役場職員約180人による町内のゴミを拾うボランティア活動「クリーン運動」が行われました。

活動場所は役場からJR陸奥鶴田駅周辺や木筒地区から妙堂崎地区の農免道路、富士見湖パーク周辺。ボランティアによるゴミ拾いは約2時間行われ、約400kgのゴミが収集されました。今回特に目についたのは、農免道路の沿道や道路に隣接した農地のゴミです。車から投げ捨てられたと思わしき空き缶や空ペットボトルが多く見受けられました。

4/13 地域住民の命と財産を守るために 春の火災予防運動

春の火災予防運動が4月14日から20日の日程で実施され、運動前日の13日には鶴田町消防団（小野正彦団長）が管内全域で広報パレードを行いました。

パレードでは、査察者の相川町長や小野団長らが町内15か所の屯所を巡回。各屯所では団員らの出勤状況の報告、服装や姿勢などの確認を行いました。また、団員らは日々使用する器具の点検や放水訓練などを素早く行い、緊急時に即応できる体制を披露していました。



放水訓練を行う団員たち

4/23 町の新たな有害鳥獣対策始まる 鶴田町鳥獣被害対策実施隊委嘱状交付式

近年被害が増加している鳥獣被害対策のために今年度から「鶴田町鳥獣被害対策実施隊」が発足し、町役場で10名の隊員に委嘱状が交付されました。

現在、鶴田町には猟友会なく、これまで鳥獣被害が発生した際は近隣市町の猟友会支部に応援を依頼していました。

今回発足した鳥獣被害対策実施隊は、町が定める被害防止計画に基づき調査・捕獲・被害防止技術の普及指導等といった鳥獣被害対策の実践的活動を行います。



相川町長から委嘱状を交付される隊員

地域おこし 協力隊通信

Vol.85（筆：葛西 あゆみ）

五月になりました。かわいい芽も出てきて畑はいよいよ忙しくなってきました。今年が最後の任期、一日一日を大切にしたいと思います。4/12（土）はアースディに参加し富士見湖パークの清掃、4/20（日）の春まつりでは、『地域おこし協力隊』ブースにて、スチューベンジュースの試飲を実施。昨年収穫したスチューベンで初めて絞ったジュース、鶴田町を訪れる方々に振る舞うのは緊張しましたが、たくさんの方に「おいしい。」と言って頂けたことは励みになりました。

最近少し使えるようになった津軽弁は『ささる。』自分はそのなことをするつもりじゃなかったのに、というニュアンスがじわじわと面白い！この表現は標準語にはないのではないのでしょうか。使う機会を狙っています。



△枝の結束をする様子



△春祭りの試飲を勧める様子



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。